

## 付録 2

### 工事竣工図作成基準



# 工事竣工図作成基準

平成22年	4月	1日	改定
平成23年	4月	1日	改定
平成23年	6月	15日	改定
平成24年	4月	1日	改定
平成25年	10月	1日	改定
平成26年	12月	18日	改定
平成27年	6月	1日	改定
平成28年	4月	1日	改定
平成29年	4月	1日	改定
平成29年	5月	24日	改定
平成30年	4月	1日	改定
令和2年	4月	1日	改定
令和3年	11月	30日	改定



## 工事竣工図作成基準

### 1 適用

- (1) この基準は、配水管、導水管、送水管の布設、消火栓設置及び移設工事の竣工図を作成する為の基準である。
- (2) 作図、記号、線の一般的用法その他について、この基準に定めのないものは、JIS Z 8310（製図総則）、JIS A 0101（土木製図通則）、土木学会制定「土木製図基準」に準拠するものとする。

### 2 作図一般

- (1) 作図は、出来る限り簡素化した製図技法を用い、明瞭かつ十分識別できる事を原則とする。
- (2) 構成図は、図面名、縮尺を記載する。
- (3) 方位は、北を図面の上方にすることを原則とし記載する。ただし、構成上不可能な場合はこの限りではない。
- (4) 図面は、「補足 1 配管材記号等」で示す配管材記号で記入する。
- (5) 寸法の単位は、メートルを原則とする。
  - ① 単位は、JIS Z 8203（国際単位系（SI）及びその使い方）の規定に準拠する。
  - ② 小数点以下第 3 位を四捨五入して、第 2 位まで記載する。  
なお、異形管個々の単位は、ミリメートルを四捨五入とする。※ 図面への寸法単位記入は、以降の各記載例を参考にする。
- (6) 寸法は、特に明示してある場合の他は完成寸法を示すものとする。

### 3 図面の大きさ及び紙質

- (1) 原図の大きさは、A1 版を原則とする。
- (2) 原図の紙質は、トレーシングペーパーを原則とする。

### 4 図面の構成

- (1) 図面の表題欄は共通様式とし、各図面は「案内図、工事概要、道路復旧標準図」、「平面図、配管図、詳細図、断面図、（縦断図）」、「オフセット図」、「給水図、給水管取替一覧表」、「撤去・埋置き廃止管図、撤去・埋置き廃止管数量表、断面図」で構成する。  
また、構成図の配置は、「補則 2 竣工図の配置箇所」を参照して作成する。  
ただし、構成上不可能な場合はこの限りではない。
- (2) 平面図、縦断図、配管図、配管詳細図等規定の大きさに作図できない場合は、A1 版に分割して作成し、「図-1 図面が 2 枚にまたがる場合の記入例」のように、その接続表示を明確にすること。

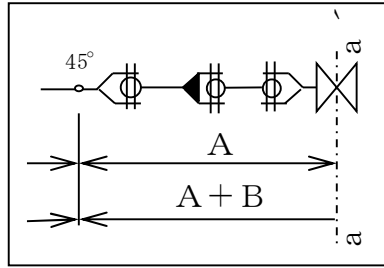


図-1

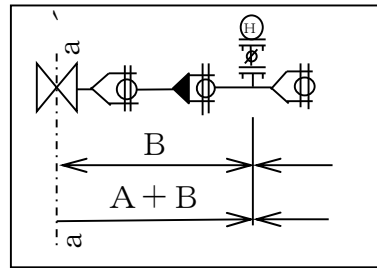


図-2

図-1 図面が2枚にまたがる場合の記入例

5 表題欄

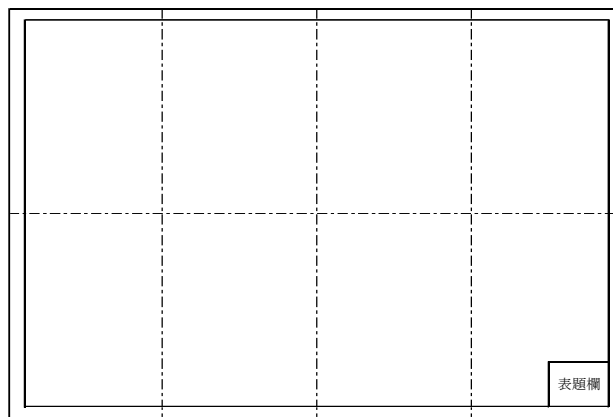


図-2 表題欄配置箇所

(1) 表題欄は、「図-2 表題欄配置箇所」のように図面の右最下段に配置し、「図-3 表題欄図」の様式で該当事項を記入する。

なお、表中の竣工年月日は、検査合格日を記入すること。

竣 工 図					
工 事 名					
工事場所					
図 面 名				図 番	
縮 尺	竣工年月日 (検査年月日)		令和	年	月 日
受注者名					
担 当	係 長	課長補佐	副参事	課 長	

Dimensions: Total width 119, total height 93. Row heights: 12, 12, 12, 12, 12, 6, 15. Column widths: 17, 17, 17, 17, 17, 34.

図-3 表題欄図

## 6 案内図

- (1) マッピング図を使用し、縮尺を 1/2500 とする。
- (2) 施工配管路を太線で記し円または楕円で囲み、「工事場所」と記載する。
- (3) 工事始点及び終点の住所を記載する。
- (4) 目標になる場所・建物・公共施設・主要道路名等を記載する。
- (5) 工事路線が複数ある場合は、囲いごとに平面図が記載されている竣工図面番号を明記する。
- (6) 案内図の記載例は、「図-4 案内図例」のとおり。



図-4 案内図例

## 7 工事概要

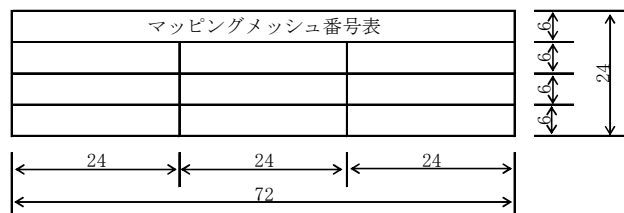
- (1) 工事概要は、「表-1 工事概要様式の基本表」の「布設工事数量表」「マッピングメッシュ番号表」が基本となり各表の例を基に当該事項を記載する。
- (2) 布設工事数量表は案内図の下に配置し、マッピングメッシュ番号表は表題欄の左側に配置する。
- (3) 布設工事数量表の種別等項目欄は、数量記入がない場合は削除できる。
- (4) その他概要の記載箇所は表題欄の上側に記載する。
- (5) 可とう管を設置した場合は、可とう管規格表を「表-2 可とう管規格表記入例」のように該当事項を記入し、布設工事数量表の下段に配置する。

表-1 工事概要様式の基本表  
(布設工事数量表例)

布設工事数量表

種別	口径	管種	布設延長 (m)	直管 (m)	異形管 (m)	仕切弁 (台)	排水弁 (台)	排水栓 (基)	消火栓 (新設) (基)	消火栓 (移設) (基)	空気弁 (基)	可換管 (基)	不断水式仕切弁 (台)	簡易不断水式仕切弁 (台)	耐震形特殊T字管 (個)
布設工事	φ○○○	DIP (GX-1E)													
	φ○○○	DIP (GX-1E)													
取出工事	φ○○	DIP (GX-1E)													
	φ○○	DIP (GX-1E)													
計															

(マッピングメッシュ番号表例)



(その他概要記載例)

1. 全線埋設表示シート敷設
2. 全線ポリエチレンスリーブ被覆施工
3. 腐食抑制金具取付 (K形)

竣 工 図	
工事名	
工事場所	

表-2 可とう管規格表記入例

可とう管規格表

可とう管種類	G X型ダクタイトル 鋳鉄製ボール型伸縮可とう管
口径 (mm)	φ 200
偏心量 (mm)	200
形 式	ダブル型 G X形受口 + G X形挿し口
メーカー名	○○○○株式会社

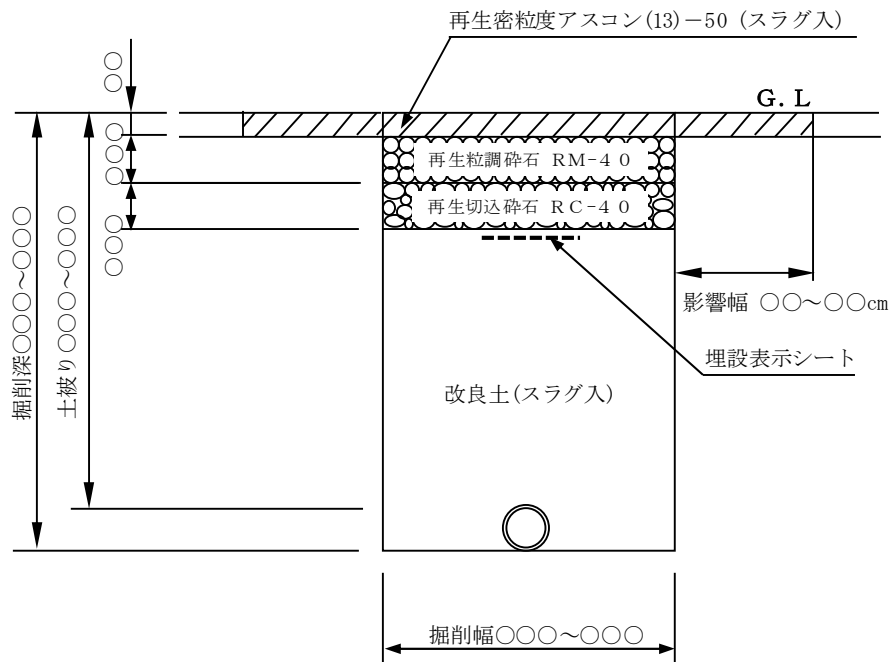


8 道路復旧標準図

- (1) 縮尺はフリーとする。
- (2) 道路復旧標準図の記載例は「図-5 道路復旧標準図記載例」のとおり。

道路復旧標準図 S=Free

<影響復旧の場合>



<全面復旧の場合>

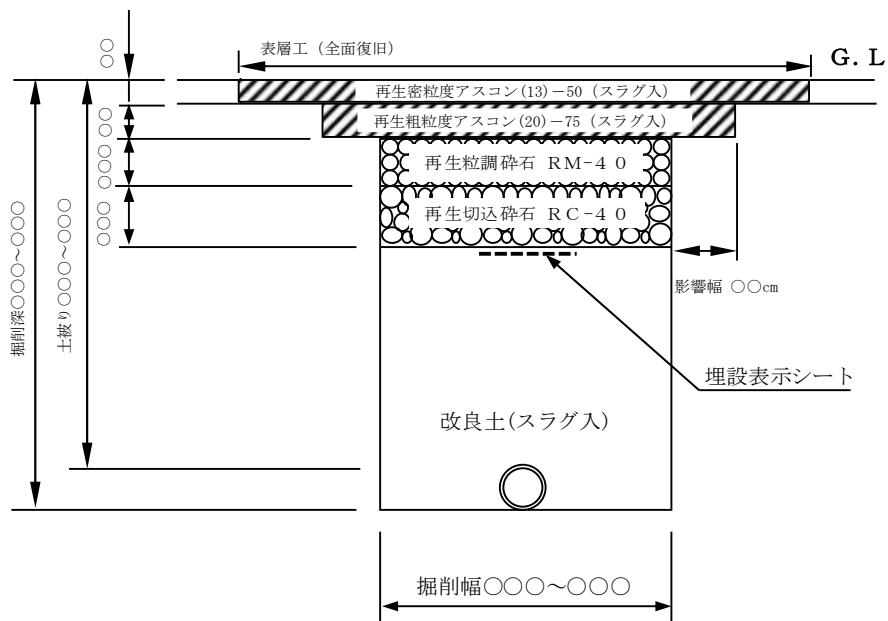


図-5 道路復旧標準図記載例

9 平面図

- (1) 平面図は、縮尺は1/500とする。
- (2) 施工管路については地形、弁類及び地下埋設物は、「補則1 配管材記号等」を用い、すべて記入する。
- (3) 家屋名を明記し、住所等については起点・終点その他必要に応じて記入する。
- (4) 新設管路については、太い実線、既設管路は細い実線で記入し弁栓類を「補則1 配管材記号等」により記入する。
- (5) 弁栓類については、新設管路・既設管路を問わず、室施工を行ったすべてに室名を記入する。

また、境界杭・プレートの復旧箇所は記入する。

- (6) 布設延長の数量については、口径、管種、地区画別等で記入し、直管延長（直管＋切管）、異形管延長（総延長－（直管＋切管））を記入する。

※ ここでの総延長は、管芯長で算出されたものである。

- (7) 弁栓類の設置においては、10桁の管理番号を記入し、バタフライ弁を設置した場合は、回転数、形式、メーカー名も併せて記入する。
- (8) 平面図は、配管図の上段に記載することを原則とする。
- (9) 水管橋・橋梁添架で河川・水路を横断する場合は、流水方向を明記する。
- (10) 平面図の記載例は「図-6 平面図記載例」のとおり。

平面図 S=1/500

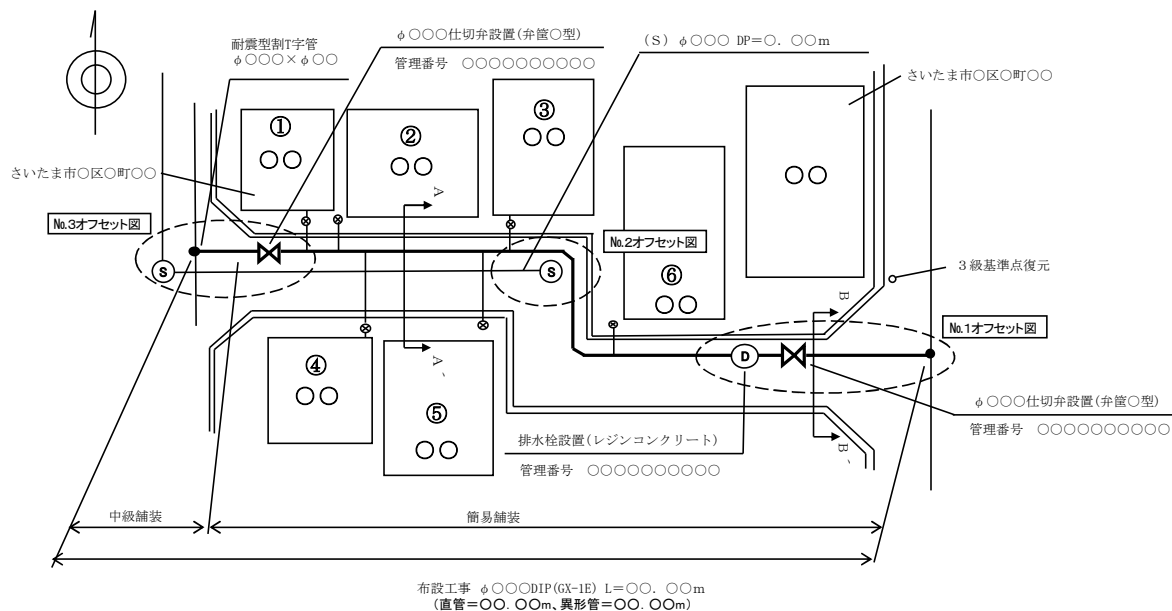


図-6 平面図記載例

## 10 配管図及び配管詳細図

- (1) 縮尺はフリーとする。
- (2) 施工管路すべて記入し、記載位置は平面図の下段を原則とする。
- (3) 異形管、切管、仕切弁、消火栓、空気弁、その他についても「補則1 配管材記号等」を用いすべて記入し、寸法、数量も合わせて記入する。  
また、接続する既設管は、破線にて記入。  
なお、バタフライ弁を設置した場合は、回転数、形式、メーカー名を記入し、特殊配管材等にはメーカー名を記入する。
- (4) 直管が連続した場合は数量(本)を記入し、直管が重複した場合は中間の継手記号を省略してもよい。  
なお、配水小管(φ50、SSPまたはCSST)については、管種、口径、延長も記入する。
- (5) 異形管を使ってマンホール、電柱等を避ける場合は図面にその旨を記入する。
- (6) 埋設深度に変化がある場合や仮設排水設備を設置する場合、また必要と思われる箇所には配管詳細図を作成する。
- (7) 配管図は原則として平面図に合わせ記載する。
- (8) 配管図及び配管詳細図の記載例は「図-7 配管図記載例」及び「図-8 配管詳細図記載例」のとおり。

### 配管図 S=Free

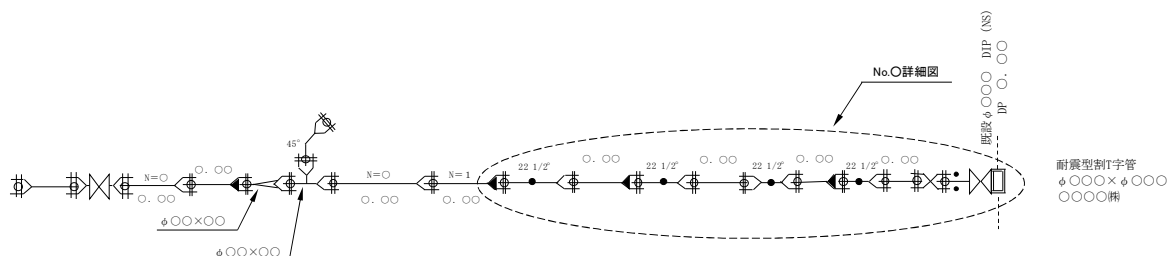


図-7 配管図記載例

### No. O 配管詳細図 S=Free

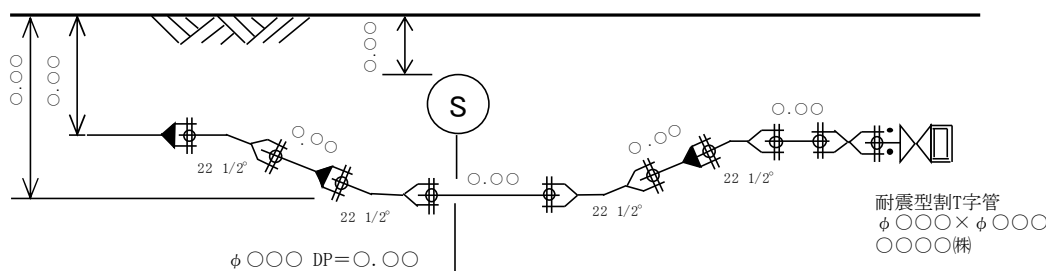


図-8 配管詳細図記載例

1 1 断面図

- (1) 縮尺は、1/100 を原則とする。
- (2) 断面図の間隔、位置は試掘調査及び工事記録写真を参考に 50m を標準とするが変化点がある場合はこの限りではない。
- (3) 布設管の埋設位置、側溝、塀及び家屋名等も記入する。
- (4) 布設管以外の埋設物位置、口径、占用者名等も記入する。
- (5) 水管橋・橋梁添架で河川・水路を横断する場合は、HWL（ハイウォーターレベル）を明記する。
- (6) 断面図の記載例は「図-9 断面図記載例」のとおり。

**断面図 S=1/100**

**A - A'**

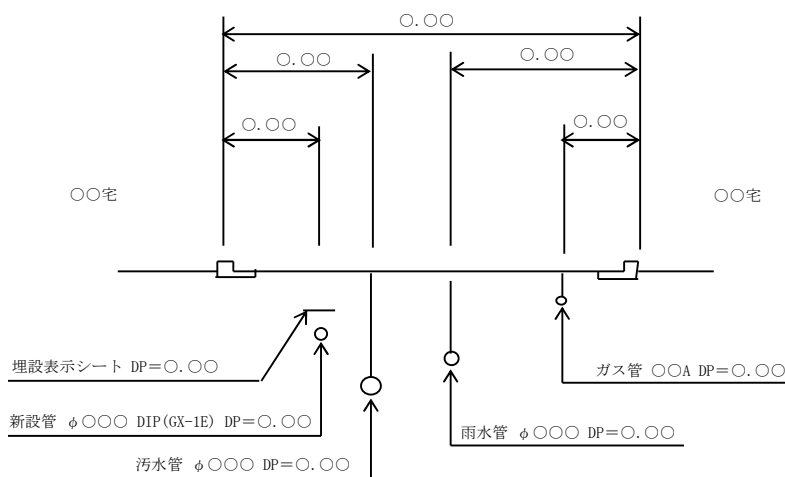


図-9 断面図記載例

## 1 2 縦断面図

- (1) 縮尺は、水平方向（横）は1/500、垂直方向（縦）は1/100を原則とする。
- (2) 設計図で縦断面図を備えている場合はすべて竣工図でも記載する。
- (3) (2)以外も監督職員の指示により、記載を必要とする場合もある。
- (4) 縦断面図は、地盤高・管芯高・土被・追加距離・単距離・測点・埋設物の状況・分岐管・消火栓・曲管・仕切弁・その他記載を必要とするものすべて記入する。
- (5) 縦断面図の配置は、平面図の最下段に記載する。
- (6) 縦断面図の記載例は、「図-10 縦断面図記載例」のとおり。

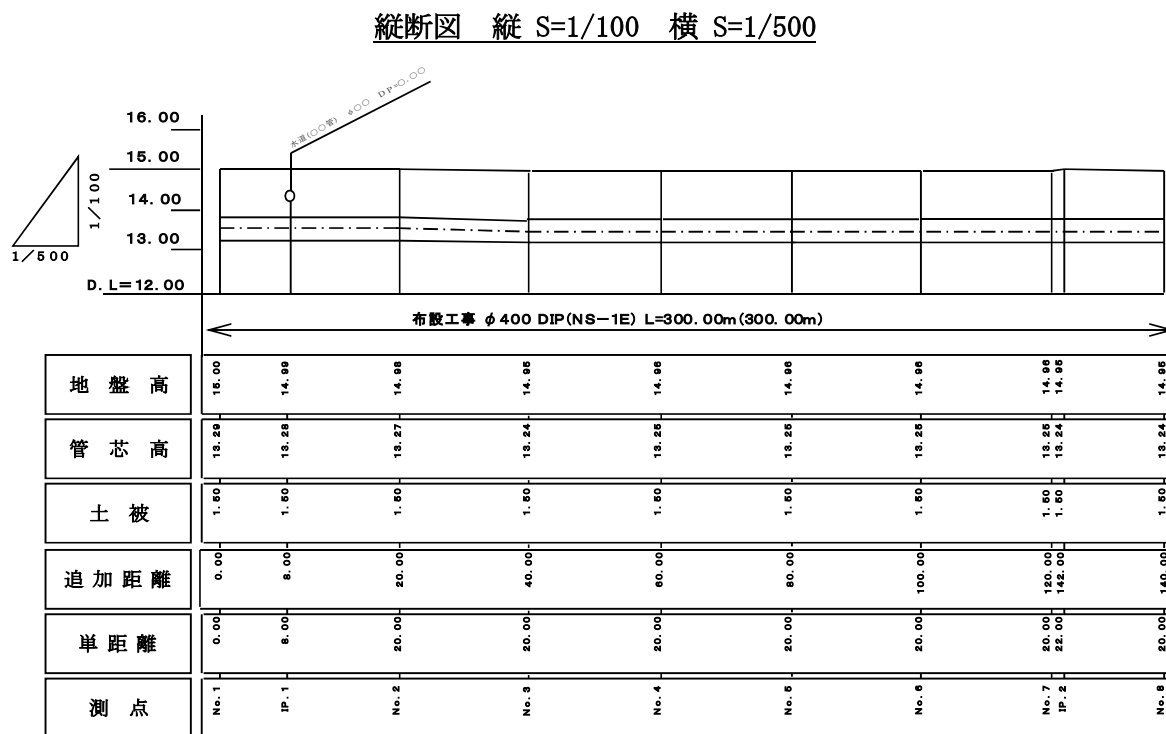


図-10 縦断面図記載例

### 1 3 オフセット図

- (1) 縮尺は、1/100 を原則とする。
- (2) オフセットをとる場合は、弁栓類、分岐点、工事起点、工事終点、その他必要とする個所とし、引照点は原則 3 か所とする。
- (3) 引照点となるものは、永久構造物(境界プレート、石杭、地先境界の角等)を原則とし、引照点の名称を記入する。
- (4) オフセット図上の番号と平面図上の番号は、同一番号とする。
- (5) 45° 以上の曲管が連続する場合は、1 か所以上記入する。
- (6) 乙字管 (GX) がある場合は、必ず記入する。
- (7) 支栓閉栓、割T字管の栓止がある場合は、必ず記入する。
- (8) 回避した障害物名称を記入する。
- (9) オフセット図の記載例は「図-11 オフセット図記載例」のとおり。

#### No. ○オフセット図 S=1/100

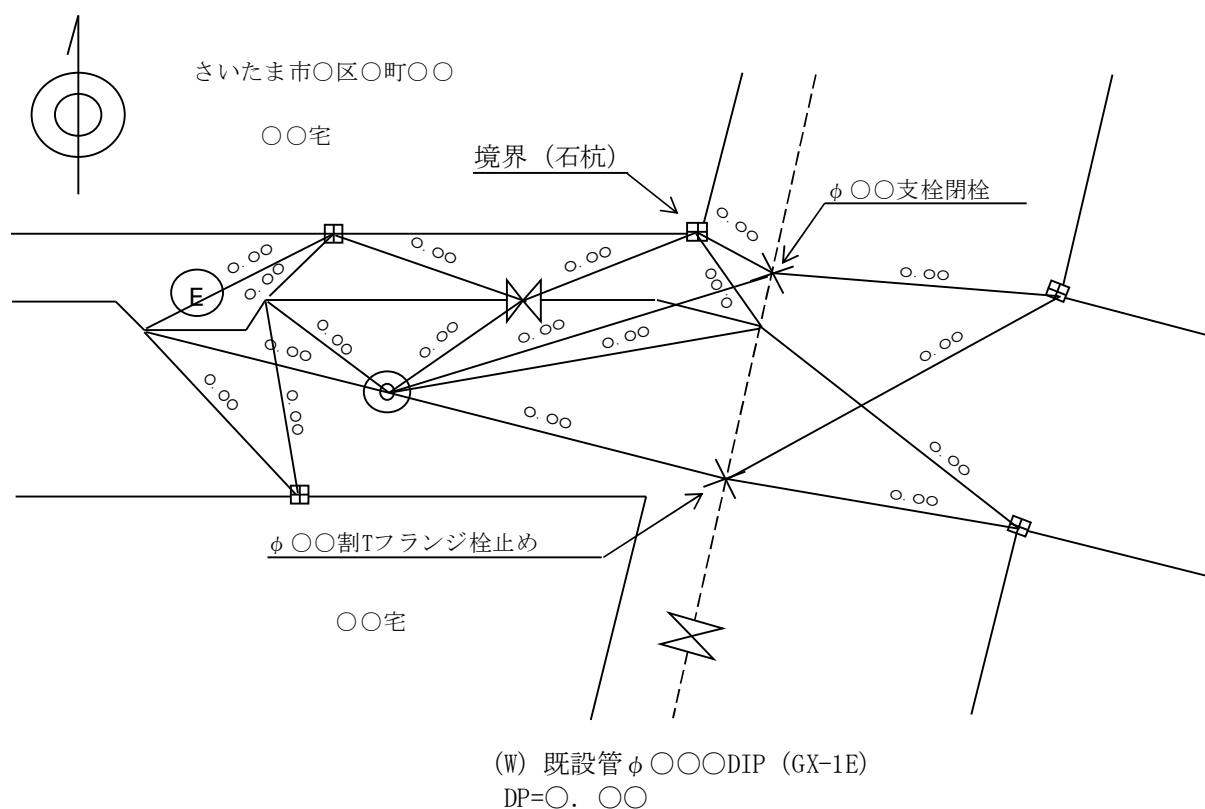


図-11 オフセット図記載例

## 1 4 給水図

- (1) 縮尺は、1/500 を原則とする。
- (2) 平面図を作成し、NO、水道番号、家屋名を表記し、取出口径を記入する。
- (3) 取付位置を太線で記入し、取付替位置がわかるようにする。
- (4) 水道番号・住所・取出口径等を集計表により表示する。
- (5) 取出箇所のオフセットの寸法を記入する。
- (6) メーター移設・支栓閉栓・割T字管閉栓箇所を表示する。
- (7) 連合栓の場合は、取付替件数1件が複数戸数となる場合がある。
- (8) 給水図の記載例と給水管取付替一覧表の記入例は、「図-12 給水図記載例」、「表-3 給水管取付替一覧表記入例」のとおり。

給水図 S=1/500

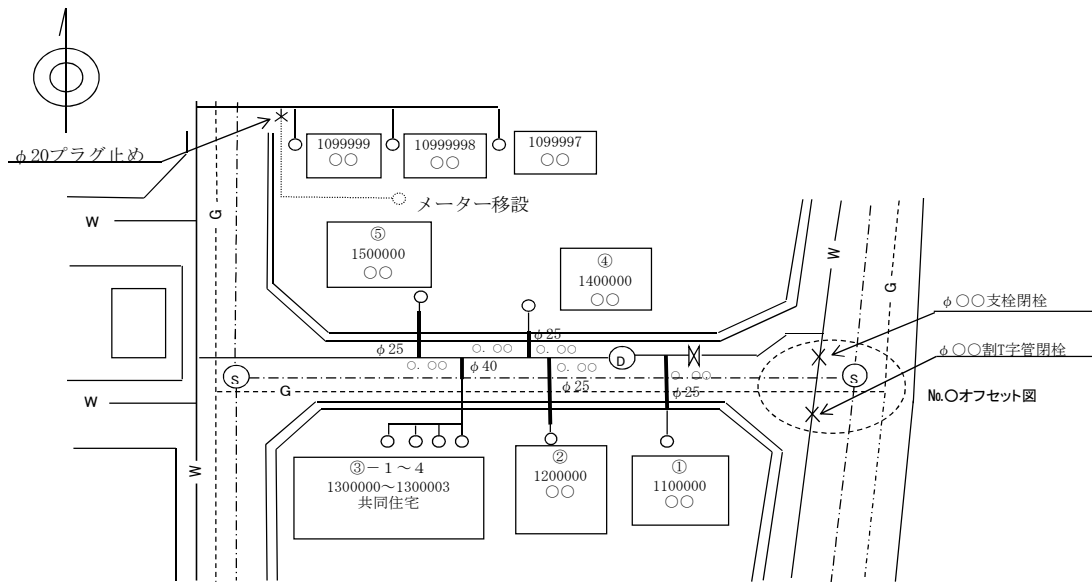


図-12 給水図記載例

表-3 給水管取付替一覧表記入例

給水管取付替一覧表

番号	水道番号	住 所	取出口径	管種	接続位置				メーター廻り			備 考	
					境界	立上	横引	接続管種	メーター口径	一次側フレキ (手動式バルブ含む)	二次側		メーター BOX
①	1100000	さいたま市〇〇区・・・	φ150×φ25	CSSP	0.00	0.50	0.00	※1 PP	φ20	○	○	○	
②	1200000	さいたま市〇〇区・・・	φ150×φ25	CSSP	1.00	0.50	0.30	※2 メーター	φ20	○			家屋基礎下
③-1	1300000	さいたま市〇〇区・・・	φ150×φ40	SFP	-2.00	-	-	※3 SSP	φ20				
③-2	1300001	"	連						φ20				
③-3	1300002	"	合						φ20				
③-4	1300003	"							φ20				
④	1400000	さいたま市〇〇区・・・	φ150×φ25	CSSP	0.00	0.40	0.00	※4 SFP	φ20				
⑤	1500000	さいたま市〇〇区・・・	φ150×φ25	CSSP	1.00	0.70	2.30	PP	φ20	○	○	○	・支分プラグ止め ・メーター移設

取付替件数 5件

対象戸数 8戸

- ※1 二次側に接続の場合、既設の管種を記入
- ※2 メーターに接続の場合
- ※3 既設がSSPで取付が分水フレキ接続の場合
- ※4 一次側フレキに接続の場合

## 1 5 撤去・埋置き廃止管図

- (1) 縮尺は、1/500 を原則とする。
- (2) 平面図を作成し、家屋名を表記し、既設管（本管・給水管）の撤去・埋置き廃止管を記入する。  
 なお、既設管（本管）については、工事番号を記入する。  
 また、撤去・埋置き廃止管は、口径、管種、延長を記入する。
- (3) 埋置き廃止管（本管）については、断面図（11 断面図に準ずる）を作成する。
- (4) 閉栓箇所（本管・給水管・仮給水管取出部）、埋置き廃止管（本管）の起点及び終点位置の各オフセット（13 オフセット図に準ずる）を作成する。  
 また、撤去、埋置きに係わらず、撤去・埋置き廃止管の数量を表に総括する。
- (5) 仮設材等を残置した場合は、端部や折点の各オフセット（13 オフセット図に準ずる）を作成する。
- (6) 撤去・埋置き廃止管図及び埋置き廃止管断面図の記載例、撤去・埋置き廃止管数量表及び支栓閉栓数量表の記入例は、「図-13 撤去・埋置き廃止管図記載例」、「図-14 埋置き廃止管図断面図」、「表-4 撤去・埋置き廃止管数量表記入例」、「表-5 支栓閉栓数量表記入例」のとおり。
- (7) 既設管（本管）を鞘管として利用する場合は、埋置き廃止管として記載する。

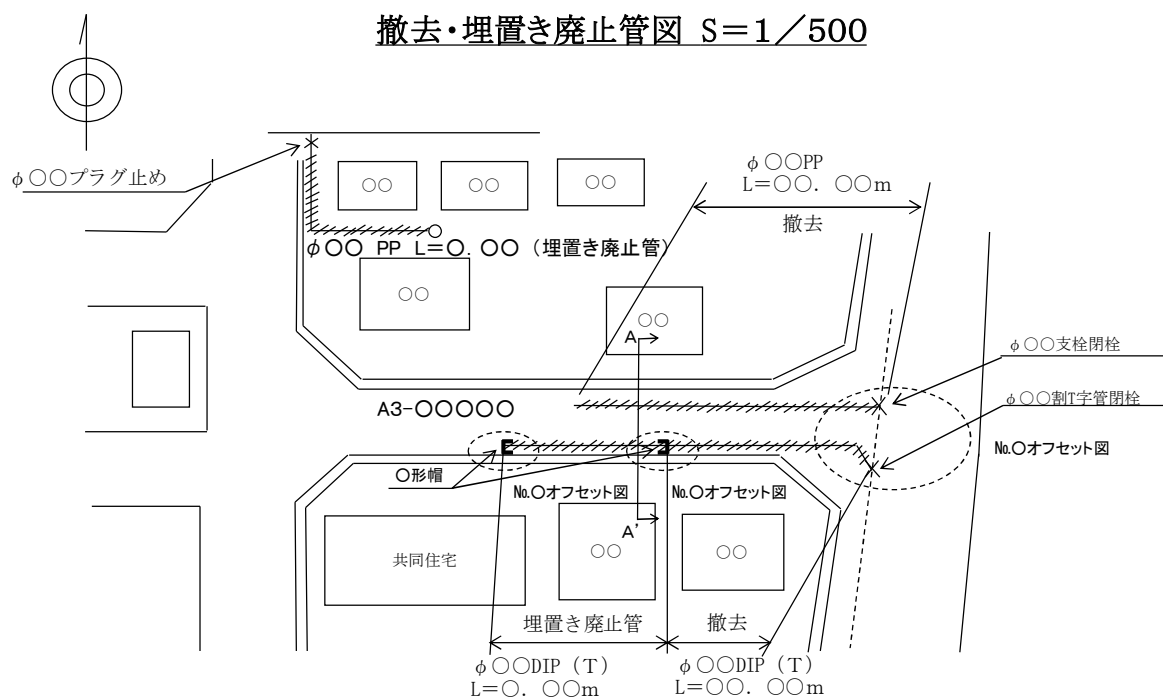


図-13 撤去・埋置き廃止管図記載例



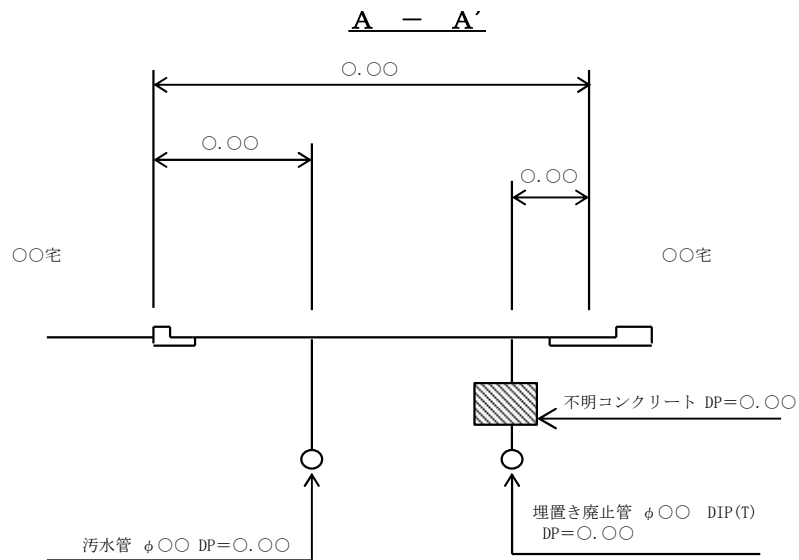


図-14 埋置き廃止管断面図記載例

表-4 撤去・埋置き廃止管数量表記入例

撤去・埋置き廃止管数量表

種別	口径	管種	延長 (m)	仕切弁 (台)	排水弁 (台)	排水栓 (基)	消火栓 (基)	空気弁 (基)	可撓管 (基)	不断水式 仕切弁 (台)	備考
配水支管	φ〇〇	DIP (T)									撤去
	φ〇〇	DIP (T)									埋置き廃止管(モルタル充填)
	計										
給水管	φ〇〇	PP									撤去
	φ〇〇	PP									埋置き廃止管
	計										

表-5 支栓閉栓数量表記入例

支栓閉栓数量表

口径	栓数	備考
φ〇〇	〇栓	割T字管フランジ栓止め
φ〇〇	〇栓	キャップ止め
φ〇〇	〇栓	プラグ止め

1 6 沈下棒を設置した工事の竣工図

(1) 沈下棒の設置状況がわかるように施工管路図とは別に図面を作成する。

また、表題欄の工事名は、維持管理課に確認し、「沈下棒設置（その〇〇）工事」と記載する。

なお、図面は、「案内図、平面図、沈下棒設置標準図、仮 BM 位置詳細図、沈下棒概要表」で構成する。

(2) 案内図と平面図は、「6 案内図」、「9 平面図」に準じて作成する。

また、仮 BM 位置詳細図と沈下棒設置標準図の縮尺はフリーとし、各部記載例は、「図-15 仮 BM 位置詳細図例」、「図-16 沈下棒設置標準図例」のとおり。

(3) 沈下棒概要表の記入例は、「表-6 沈下棒概要表様式の基本表」の「沈下測定装置表」「可とう管性能表」「可とう管規格表」が基本となり、各表記入例のように当該事項を記入する。

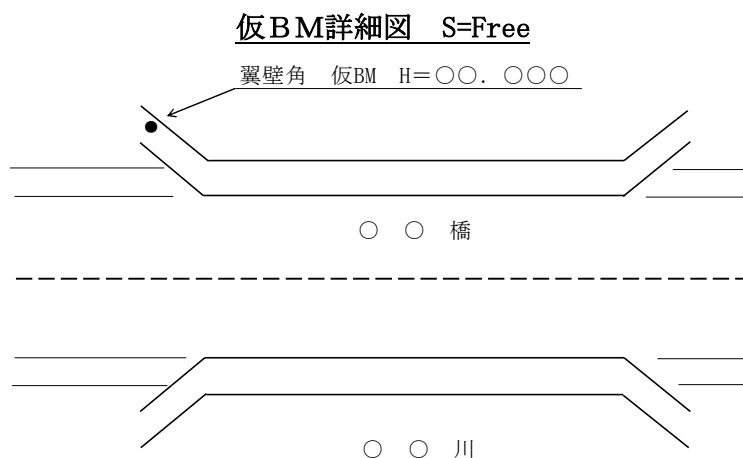


図-15 仮BM位置詳細図例

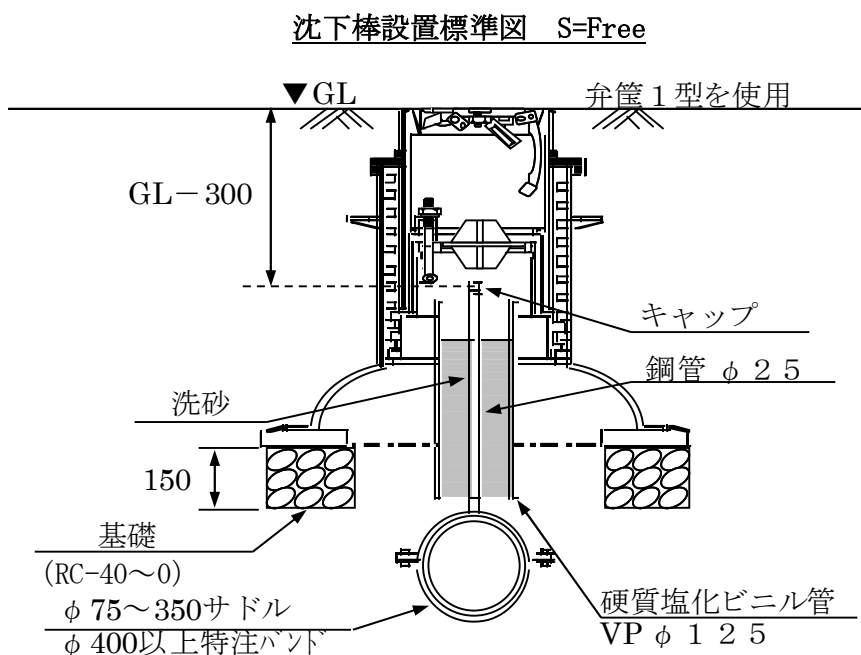


図-16 沈下棒設置標準図例

表-6 沈下棒概要表様式の基本表  
(沈下測定装置表記入例)

沈下測定装置表

可とう管番号	仮BM (m)	沈下測定装置番号	測定値 (m)
No. 1	10.394	No. 1	9.917
No. 2	10.394	No. 1	8.632

(可とう管性能表記入例)

可とう管性能表

可とう管種別	可とう管番号	口径 (mm)	管面長 (mm)	偏心量 (mm)
ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管	No. 1	φ 500	1,970	200
	No. 2	φ 500	1,970	200

(可とう管規格表記入例)

可とう管規格表

可とう管番号	No. 1、No. 2
可とう管種類	NS型ダクタイル鋳鉄製ボール型伸縮可とう管
口径 (mm)	φ 500
偏心量 (mm)	200
形 式	ダブル型 NS形受口+NS形挿し口
メーカー名	〇〇〇〇株式会社

### 1.7 新設消火栓単独工事の竣工図

- (1) 図面は、「案内図、道路復旧標準図、平面図、配管図、断面図、消火栓構造図、オフセット図、市内消火栓設置工事数量表」で構成し、「補則 2 竣工図の配置箇所」を標準例とし設置箇所毎に作成する。
- (2) 案内図、平面図、配管図、断面図、道路復旧標準図、オフセット図は、「6 案内図」、「8 道路復旧標準図」、「9 平面図」、「10 配管図及び配管詳細図」、「11 断面図」、「13 オフセット図」に準じて作成する。  
また、消火栓構造図の縮尺はフリーとし、記載例は、「図-17 消火栓構造図例」のとおり。
- (3) 市内消火栓設置工事数量表の記入例は、「表-7 市内消火栓設置工事数量表記入例」とし、当該事項を記入する。

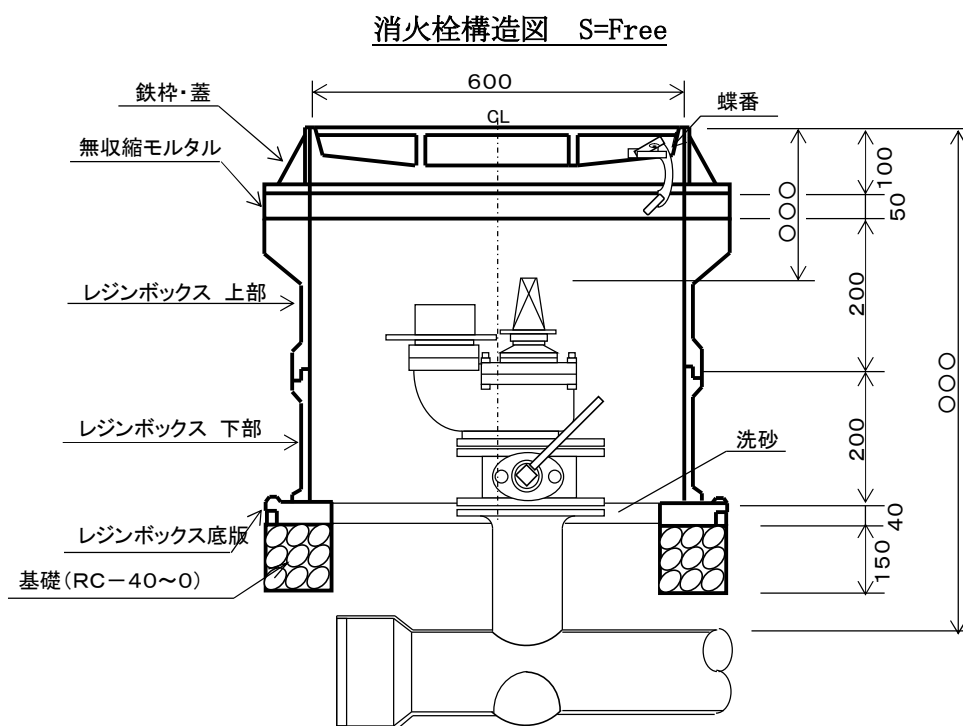


図-17 消火栓構造図例

表-7 市内消火栓設置工事数量表記入例

市内消火栓設置工事数量表

種 別	口径・管種	単口地下式消火栓
消火栓設置工事	DIP(NS) φ300×φ75	1基

## 1 8 竣工図面の種類と提出部数

当該工事の竣工後に「表-8 竣工図面の種類と提出部数一覧表」の竣工図面を直ちに作成し監督職員に提出する。

ただし、提出部数については、監督職員の指示により変更する場合もある。

表-8 竣工図面の種類と提出部数一覧表

種 別	規 格	提出部数	折畳規格	備 考
竣工図原図	A1 版	1 部	—	原図は丸めて提出
竣工図製本	A1 版	1 冊	A4 版	
竣工図折畳版	A1 版	3 部	A4 版	



## 補則 1 配管材記号等

竣工図に表示する配管記号、管種別略称及びその他の各種記号は次のとおりとする。

### 1 管種別略称

管種	略称	管種	略称	
ダ ク タ イ ル 鑄 鉄 管	A形	D I P (A)	メカニカル鑄鉄管 (無ライニング)	M C P
	K形	D I P (K-1)	いんろう形鑄鉄管	C I P
		D I P (K-3)	鋼管	S P
	T形	D I P (T)	石綿セメント管	A C P
	K F形	D I P (K F)	耐衝撃性硬質塩化ビニール管	H I V P
	U形	D I P (U)	ビニールライニング鋼管	S G P - V
	U F形	D I P (U F)	水道用ステンレス鋼管 JWWA G115	S S P
	S形	D I P (S)	水道用波状ステンレス鋼管 JWWA G119	C S S T
	S II形	D I P (S II)	ステンレスフレキシブルチューブユニット	S F P
	N S形	D I P (N S-1)	鉛管	L P
		D I P (N S-S)	ポリエチレン管	P P
		D I P (N S-1 E)	—	—
		D I P (N S-S E)	—	—
G X形	D I P (G X-1 E)	—	—	

### 2 他企業工作物等

水道管	— (W) —	ガスピット	— (G) —
工業用水	— (I W) —	電気ケーブル	— (E) —
下水道管	— (S) —	電気人孔	— (E) —
下水道人孔	— (S) —	電話ケーブル	— (T) —
ガス管	— (G) —	電話人孔	— (T) —

### 3 平面図用弁栓類記号一覧表

平面図用弁栓類記号			
仕切弁	✕	空気弁	(A)
不断水仕切弁	⊗	排水栓	(D)
		空気弁付排水栓	(AD)
排水弁	✕	消火栓	(H)
排水口	⊕	耐震形特殊T字管	■

4 配管材記号等一覧表

配管材記号			
管材料	G X形	N S形	K形
直管			
曲管 (平面)			
両受曲管 (平面)			
曲管 (立面)			
両受曲管 (立面)			
乙字管 (平面)			
乙字管 (立面)			
二受 T 字管			
三受十字管			
フランジ付 T 字管			
渦巻き式フランジ付 T 字管			
受挿し片落管			
挿し受片落管			
短管 1 号			
短管 2 号			
両受短管			
継輪 (普通押輪付)			
継輪 (特殊押輪付)			
仕切弁 (受挿し)			
仕切弁 (両受)			
フランジ面の表記は右記のとおり	RF型                  GF型		
K形特殊押し輪の表記は右記のとおり			
NS形継手 (ライナー) の表記は右記のとおり			
G X形継手 (ライナー) の表記は右記のとおり			

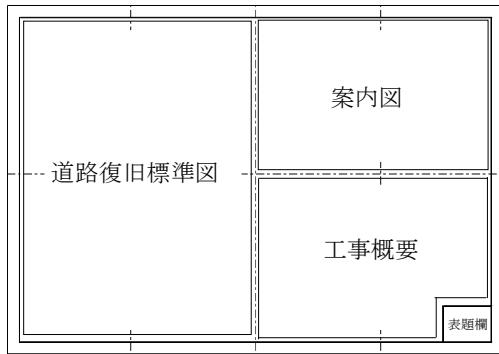


配 管 材 記 号			
材料等	記号	各部の配管パターン (例)	
消火栓		消火栓 (浅埋用)	
空気弁			
双口空気弁		排水栓 (浅埋用)	
排水栓 (空気弁付排水栓含む)			
排水口		空気弁付排水栓	
補修弁付フランジ短管			
両フランジ短管		空気弁 (浅埋用)	
フランジ仕切弁			
不断水式割T字管		消火栓 排水栓 空気弁 (本管理設位置 が深い場合)	
不断水式割T字管 バルブ付			
耐震型割T字管 (特殊短管)		不断水式割T字管 バルブ付	
耐震型割T字管 (特殊ベンド)(平面)			
耐震型割T字管 (特殊ベンド)(立面)			
栓		耐震型割T字管 (特殊短管) 〔直管接続〕	
フランジ栓		耐震型割T字管 (特殊ベンド)(平面) 〔曲管接続〕	
メカ帽	K形  NS形	耐震型割T字管 (特殊ベンド)(立面) 〔曲管接続〕	
		帽	NS形  GX形
異種管継手 (各ジョイント共通)		伸縮可とう管 〔事例：NS〕	
異種管継手片落管 (各ジョイント共通)			
耐震形特殊T字管		伸縮可とう管 (沈下棒付) 〔事例：NS〕	
片フランジ曲管			

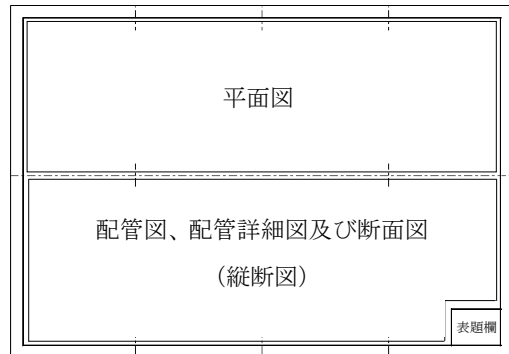
## 補則2 竣工図の配置箇所

### 1 配水本管工事、配水支管工事及び布設替工事

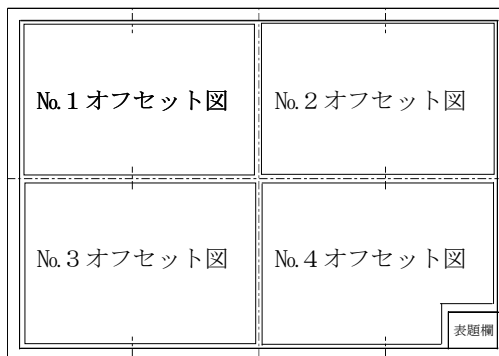
配水本管工事、配水支管工事及び布設替工事の図面の配置は、「図番 1/5、図番 2/5、図番 3/5、図番 4/5、図番 5/5」のとおり。



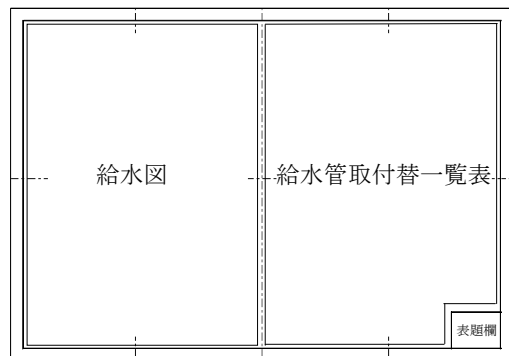
図番 1/5



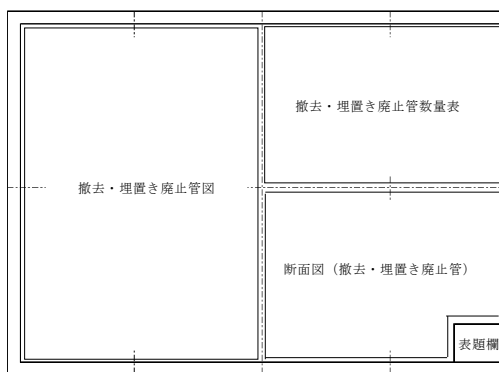
図番 2/5



図番 3/5



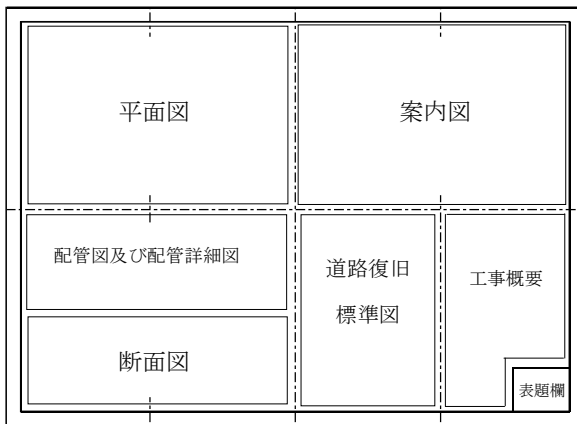
図番 4/5



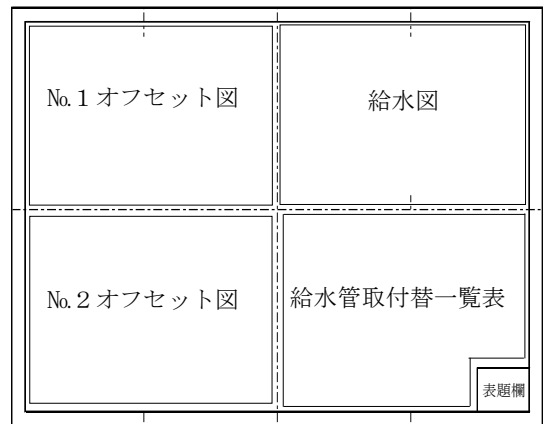
図番 5/5

## 2 配水小管工事

配水小管工事の図面の配置は、「図番 1/2、図番 2/2」のとおり。



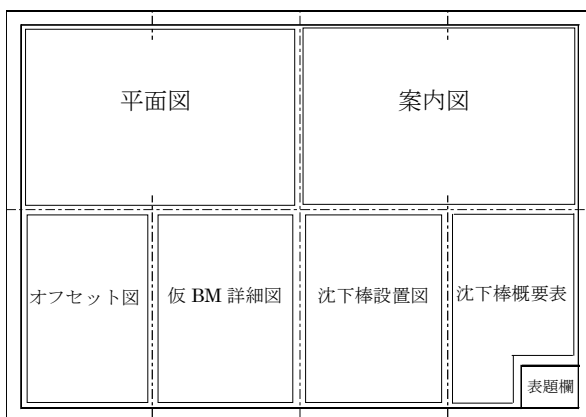
図番 1/2



図番 2/2

## 3 沈下棒を設置した工事

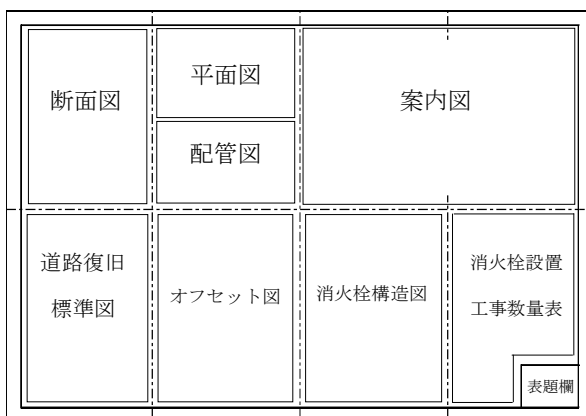
沈下棒を設置した工事の図面の配置は、「図番 1/1」のとおり。



図番 1/1

## 4 新設消火栓単独工事

新設消火栓単独工事の図面の配置は、「図番 1/1」のとおり。



図番 1/1

